

第21回北海道大学-ソウル大学校ジョイントシンポジウムを開催

11月8日（木）、9日（金）に、韓国ソウル大学校（Seoul National University, SNU）と本学のジョイントシンポジウムを開催しました。両大学の合同シンポジウムは、平成10年より毎年交互にホスト校となる形で開催しています。

第21回となった本シンポジウムでは、先方の強い希望もあり、全体会及び歓迎レセプションを復活させることとなり、「学術図書館の挑戦と大学博物館／美術館の役割」というテーマのもと開催しました。

本学総合博物館の小林快次准教授と、高等教育推進機構の重田勝介准教授から、それぞれ博物館及び文書館・図書館で備えるデータベースの紹介が

あり、特に、東京芸術大学に続き、大学附属博物館では日本で2番目の訪問者数を誇ることや展示の妙に感心の声が上がりました。ソウル大学校美術館のチョン・ヨンモク教授とソウル大学校図書館長であるソ・イジョン教授からは、それぞれの美術館と図書館の施設機能の紹介と今後の展望が述べられました。全体会のテーマとしては珍しく、学術施設・設備を扱ったものでしたが、今後の機能強化及び施設面での連携に向けた、良い情報交換の場となりました。

全体会の参加者には、大学院共通科目である「博物館コミュニケーション特論 ミュージアムグッズの開発と評価」において、6名の受講生が企画・

デザインしたグッズが配布されました。

また、昨年より開始した職員交流も継続して行われ、今年は2名の国際部署事務職員を受け入れることとなり、同時期に受け入れたイタリアのカ・フォスカリ大学の人事担当職員とともに、本学関係部署での研修に参加しました。

今年度は9部局から10分科会が本学札幌キャンパスを主会場として催され、両大学及び他校から約300名が参加しました。

（国際部国際連携課）



総合博物館 小林准教授



高等教育推進機構 重田准教授



SNU美術館 チョン教授



SNU図書館長 ソ教授



全体会参加者の様子



分科会1

The 7th HU-SNU Joint Symposium on Materials Science and Engineering

第7回材料科学に関する合同シンポジウム／工学研究院 教授 橋本直幸

本シンポジウムは、ソウル大学校の Youngwoon KIM教授の協力のもと、本学工学研究院材料科学部門とソウル大学校工科大学材料工学科との間で開始され、3回目よりHeung Nam HAN教授を窓口とし、本年度は11月9日（金）に本学工学研究院材料科学棟内中会議室において開催しました。ソウル大学校・本学双方から計10名の教授・准教授に、本学の大学院生及び学部生20数名を加えた、計30名以上が参

加し、先生方から材料科学に関する最新の研究を紹介していただきました。発表いただいた内容には両大学とも共通の研究課題があり、最新の成果報告により活発かつ有意義な討論が行われ、今後も引き続き情報交換することで一致しました。また、大学院生（博士後期課程）数名による口頭発表も行われ、ソウル大学校・本学教授陣が審査した後、2名にExcellent Presentation Award（優秀論文発表賞）を授与し

ました。今後はさらに、本学の新渡戸プロジェクトを念頭にした学部生対象のインターンシッププログラムや、サマースクールの開講も積極的に進める方向で一致し、分科会の行事を終了しました。本シンポジウムは、来年度はソウル大学校で行われます。



シンポジウムでの討論の様子



参加者集合写真



優秀論文発表賞受賞者：長谷川君

分科会2

2018 International Workshop on New Frontiers in Convergence Science and Technology

2018複合領域科学及び技術に関する国際ワークショップ／情報科学研究科 教授 平田 拓

11月9日（金）に、カウンターパートであるソウル大学校コンバージェンス科学技術学院（Graduate School of Convergence Science and Technology, GSCST）とともに、情報科学研究科において分科会を開催しました。分科会の冒頭には、北 裕幸情報科学研究科長からソウル大学校の参加者へ歓迎の言葉が述べられました。分科会では11件の口頭発表（本学7件、ソウル大学校4件）と18件のポスター発表（本学7件、ソウル大学校11件）が行われました。本学からは情報科学研究科の金井 理教授、田中 章教授、岡嶋孝治教授、瀧川一学准教授、坂本大介准教授、量子集積エレクトロニクス研究センターの佐藤威友准教授、それに分科会代表者である平田 拓教授の7名が

研究紹介を行いました。また、大学院生7名がポスター発表を行いました。

分科会では、本学、ソウル大学校双方からナノマテリアル分野、バイオ関連分野、情報通信分野の研究紹介が行われ、本学の教員7名及び大学院生7名とソウル大学校の教員4名及び大学院生17名の合計35名が参加しました。

予定よりも多くソウル大学校の大学院生が参加してくれたため、盛んな分科会となりました。分科会の後は、新たな研究の交流や学生の派遣について意見交換し、今後も引続き交流を進め、共同研究や学生の相互派遣の機会を探ることを約束して分科会を終了しました。



参加者集合写真

分科会3

The 13th HU-SNU Joint Symposium on Mathematics: Probability and Functional Analysis

第13回HU-SNU数学に関するジョイントシンポジウム：確率論と関数解析／理学研究院 教授 正宗 淳

今回で13回目となる数学関連の分科会「確率と関数解析」を11月8日（木）・9日（金）に本学で開催しました。分科会では8日（木）の開会の挨拶の後、二日間に亘り全部で13の講演（ソウル大学校6名，本学7名）が行われ，確率論と関数解析，ポテンシャル論に関わる研究成果の報告と情報交換が行われました。5名の大学院生（ソウル大学校3名，本学2名）が講演を行い，参加者の国籍も日韓以外にドイツ，タイと多彩で，貴重な国際交流の

機会になりました。

全体会・レセプションでは興味深い講義やスピーチも多く，このような大学レベルの交流や研究集会を継続開催していくことの重要性が再認識されたとともに，今後も協力して開催していくことなどに多くの賛同が集まりました。また，シンポジウム後の懇親会では，今後の共同研究の可能性について議論するとともにこれまで培ってきた親睦を一層深めることができました。

講演者と講演タイトルなどの詳細に

ついては次のホームページをご覧ください。

◆<http://www.math.sci.hokudai.ac.jp/sympo/snu/2018/index.html>



集合写真

分科会4

2018 Changing Role and Functions of the Dental Library in the Future

これからの歯学図書館の役割と機能の改変について／歯学研究院長 八若保孝

本分科会は，ソウル大学校歯学部と本学歯学研究院がカウンターパートとなり，「これからの歯学図書館の役割と機能の改変（Changing Role and Functions of the Dental Library in the Future）」をテーマに11月8日（木）に歯学研究院において開催しました。本分科会は，全体で25名ほどの参加者があり，八若保孝歯学研究院長の挨拶の後，歯学研究院の高橋 茂准教授とソウル大学歯学部のSam-Sun LEE教授が，これからの歯学図書館の役割と機能の改変について講演しました。講演後のフリーディスカッションでは，ソウル大学校歯学部図書館の司書であ

るYounghee LIM氏も登壇し，活発な意見交換がなされました。

なお，分科会後のレセプションに加えて，前日には歯学研究院主催の懇親会も開催し，両学部等の親睦を深める

とともに，今後も両学部等の交流を進め，将来的には部局間交流協定を締結し，学生の派遣や共同研究に結びつけていくことで意見が一致しました。



講演する高橋准教授



講演するLEE教授

分科会5

Collective Memory, History, and Sociology

集合的記憶と歴史, 社会学/文学研究科 教授 櫻井義秀

12月7日(金)に、本学のファカルティハウスエンレイソウ第一会議室において、ソウル大学校社会学科教員4名と、本学文学研究科教員3名、経済学研究科等教員3名と大学院生による第6回目のワークショップを開催しました。今年のテーマは「集合的記憶と歴史, 社会学」であり、日韓双方から、現代における集合的記憶と歴史認識、現代人の孤立感とウェルビーイング、リベラリズムやアイロニーの精神

などについて計7本の英語による発表と質疑が行われました。

また、ワークショップの前後に今後のワークショップの展開について検討し、各自の研究関心に基づいた共同研究の企画についても検討しました。来年度以降は、ソウル大学校と本学に限らず、東アジアにおいて共同の関心を持つ研究者のワークショップやネットワークを作ることを少しずつ進めることが確認されました。



集合写真

分科会6

2018 NTNU-KU-SNU-HU Joint Symposium on Science Education
North-South Conference in STEM Education: Emerging Trends for New Asia

2018 NTNU-KU-SNU-HU 理科教育ジョイントシンポジウムSTEM教育の南北会議: アジアの最新動向/教育学研究院 教授 大野栄三

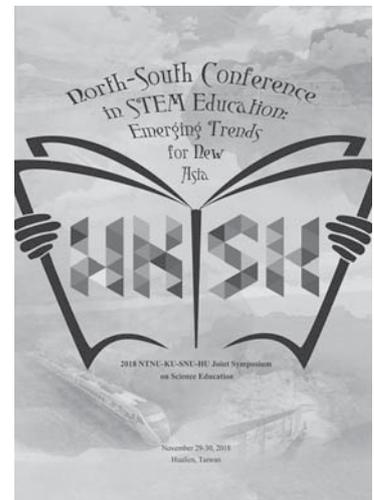
本分科会は、台湾東部の花蓮縣にある国立東華大学(National Dong Hwa University)で、東アジアの理科教育国際会議(2018 EASE)の日程と合わせて、11月29日(木)・30日(金)に開催されました。諸事情により、北大側代表者(大野栄三教授)が不参加となりましたが、代表者発表用資料から台湾師範大学(NTNU)のChun-Yen CHANG教授に作成いただいたポスターを当日会場に掲示することができました。次回の分科会は、タイのカセサート大学(KU)が幹事校となってバンコクで開催する予定です。

12月中旬にソウル国立大学のJunehee YOO教授を訪問した際に分科会の様子について詳しく伺ったところ、今回

の分科会は、ベトナムのハノイ国立教育大学(HNUE)とインドネシアのジェンベル大学からも多数の参加者があり、熱気のある分科会になったとのことでした。ベトナムのHNUEは、次回分科会からメンバーに加わりたい意向を示しており、実現すれば、アジアの5大学が集まる分科会になります。



2018EASEの看板前で撮った集合写真



本分科会のポスター

分科会7

Toward Understanding of Changing Environment in East Asia

東アジア域の変わりゆく環境の理解に向けて／理学研究院 准教授 佐々木克徳

本分科会では「東アジア域の変わりゆく環境の理解に向けて」というテーマで、本学理学研究院において、計14件の研究発表（うち、学生発表8件）を行いました。分科会は本学の佐々木克徳准教授による歓迎の挨拶で始まり、主に東アジア域の海洋変動についてのサブセッションを開催し、本学から4名とソウル大学校から3名が東アジア域の沿岸水位上昇や北太平洋の貧酸素化の研究についての発表を行いました。サブセッションの終了後、分科会独自の博物館ツアーを開催し、本学の学生が主導して博物館を見学し交流を深めました。

午後は気象学に焦点を当てた後半のサブセッションを開催し、本学から3

名、ソウル大学校から4名が、大気海洋相互作用や地球温暖化への適応研究について発表を行いました。分科会の最後にはソウル大学校のHanna NA助教より、発表者（特に大学院生）の活発な発表と討論への賛辞と、来年のソウル大学校での分科会における再会を

約束して閉会となりました。

本分科会では1日を通じて約30名の出席者があり、本学の学生にとっても国際経験を積む良い機会となりました。今後とも両校の間の活発な交流を維持するよう努めていきたいと考えています。



集合写真

分科会8

Hokkaido University—Seoul National University Joint Symposium in Ophthalmology

第13回日韓眼科シンポジウム／北海道大学病院 診療准教授 南場研一

11月16日（金）、医学研究院中央研究棟3階セミナー室において分科会「第13回日韓眼科シンポジウム」を開催しました。本学から教員6名、医員7名、大学院生4名、研修医5名、視能訓練士2名が、ソウル大学校からHyeong Gon YU教授、Baek-Lok OH教員の2名が参加しました。各10分の演題が本学から7題、ソウル大学校から2題発表されましたが、いずれも先進的な学術的に意義の高い演題であり、活発な議論が行われました。

ソウル大学校Hyeong Gon YU教授

からは「ベージェット病に対するTNF阻害薬治療」に関する講演が行われ、同じアジアで臨床研究・基礎研究に真摯に取り組んでいる姿勢に本学の若手眼科医も良い刺激を受けたことと思われます。最後に本学医学研究院の石田晋主任教授から閉会の挨拶があり、今後とも両大学間での親睦を深めていくことが再確認されました。

翌日の11月17日（土）には眼炎症性疾患の難治症例について症例検討会を行い、本学から2症例、ソウル大学校から1症例の呈示がなされ、こちらも

活発な議論が行われました。

来年はソウルにて第14回日韓眼科シンポジウムを行う予定です。



集合写真

分科会9

HU-SNU-MU-WU Joint Course: Environmental Chemicals and Human Health

HU-SNU-MU-WU協同講義：環境化学物質と人びとの健康／環境健康科学研究教育センター 特別招へい教授 岸 玲子

11月29日（木）・30日（金）に、本分科会を開催しました。本分科会はソウル大学校（SNU）との協同講義としては3回目、本学とSNUに加えて、タイのマヒドン大学（MU）及びワライラック大学（WU）の4大学に所属する教員20名及び大学院生28名が参加しました。環境と健康分野に関する基礎知識に加えて、最近の環境問題やその対策を含め、幅広い知識を習得させることができました。環境保健、環境疫学を専門とする大学院生のみならず、本学からは留学生も含めた保健科学院、獣医学院、国際感染症学院、生命科学学院、理学院、工学院、環境科学院に所属する大学院生が参加し、多様な視点を持つ質問や意見が出されました。4大学に所属する大学院生の混

合構成による5グループが事前学習とプレゼンテーションを実施し、いずれも非常にクオリティが高い発表となりました。本講義を通じて本学とSNUの大学院生間のみならず、MUやWUの大学院生との交流も通じてネットワークを形成することは、受講生が将来のキャリアを形成する上でも有益でした。



集合写真

受講生からの評価も高く、来年度も参加したいという希望が寄せられていることから、今後も継続して講義を行っていくことが望まれています。各大学のカウンターパートの教員とも、今後も継続して協同講義を行っていくことを約束し、分科会を終了しました。



グループプレゼンテーション

分科会10

6th HUH-SNUH-SHH Joint Symposium

第6回北海道大学病院-ソウル大学校病院ジョイントシンポジウム／北海道大学病院長 寶金清博

11月9日（金）に「第6回北海道大学病院-ソウル大学校病院ジョイントシンポジウム」を開催しました。今回も昨年に引き続き、本院と部局間交流協定を締結している台北医学大学双和病院が特別参加しました。

分科会は寶金清博病院長、ソウル大学校病院YonSu KIM副病院長、台北医学大学双和病院Ming-Chin LIN助教による挨拶で始まり、「ICT and IOT in medicine（医療におけるICTとIOT）」というテーマのもと、各大学から2名ずつ発表を行いました。本院からは、

長内俊也助教が「脳卒中ケアとICT（情報通信技術）」について、横田卓助教が「心不全の管理と予防におけるICT及びIoT」について発表し、それぞれの発表後には活発な質疑応答、意見交換が行われ、本会は寶金病院長からの挨拶により盛会裡に閉会しました。

今後も両大学病院間の連携強化のみならず、3大学間の緊密なネットワーク構築によるさらなる発展が期待されます。



集合写真